長岡市長記者会見要旨

日　時：令和８年９月２９日（火）午前１０時 30 分から
会　場：アオーレ長岡　東棟４階　大会議室

【会見項目１：12 月からアオーレ長岡と一部支所で試行　窓口の受付時間と開庁日を変更】

〈市長〉

長岡市は、「行かない・書かない・待たない」利便性の高い窓口サービスと、窓口業務の効率化を両立させる窓口改革を進めてきました。近年、マイナンバーカードの普及などによってオンラインやコンビニでの交付率が増加している実態を踏まえ、12 月からアオーレ長岡と一部の支所で、窓口受付時間の短縮などを試行します。

アオーレ長岡の総合窓口は、平日、土曜日とも午前９時から午後４時 30 分までとし、祝日は閉庁します。ただし、日曜日、祝日は、市民ニーズの多い証明書発行などの業務を、これまでどおり西サービスセンターで取り扱います。越路、和島、栃尾の３支所も、受付時間を平日午前９時から午後４時 30 分までに変更します。

証明書のコンビニ交付率は令和８年３月に 41.4％となり、令和５年度平均から 19.4 ポイント増加しています。転出手続きのオンライン割合も、令和８年３月には 47.8％となり、令和５年度平均から 28.6 ポイント増加しています。また、午前９時から午後４時 30 分までに来庁される方は、アオーレ長岡で約 92％、支所で約 90％です。窓口に来なくても手続きができる環境が整ってきており、朝夕の来庁者も少ないことから、今回の試行を通じて、より利便性の高い窓口サービスへの転換と業務改善を一層進めていきたいと考えています。

今後もオンライン申請を拡充するとともに、来庁が必要な手続きについては予約制を拡充し、待ち時間の削減を図ります。また、平日に来庁することが難しい方に対応するため、アオーレ総合窓口は土曜日の開庁を継続します。試行の効果と課題を検証し、令和９年度中に正式実施の可否を判断したいと考えています。

〈記者〉

本格実施となった場合、他の支所にも拡大する考えですか。

〈市長〉

本格実施の際には、市全体で実施したいと考えています。

〈記者〉

市民から開庁時間をもっと長くしてほしいという要望があった場合、時間を戻すこともありますか。

〈市長〉

当然そういうことも想定に入っていますので、市民の皆さんの声をしっかり聞いていきたいと考えています。

〈記者〉

今回の見直しによる、市内部のメリットをどのように考えていますか。

〈市長〉

長期的には、業務の削減に伴って人員の削減につなげていくべきだと考えています。ただ当面は、オンライン申請や、例えばAIを使った24時間体制の相談など、新しいサービスにも人手を割きながら、全体としてサービスの低下を招かず、むしろサービスの向上を実現できるよう取り組んでいきたいと考えています。

〈記者〉

令和9年度中に正式実施の可否を判断するということですが、検証期間はいつまでと明確に決まっているのでしょうか。

〈総務部長〉

検証は12月1日からスタートし、来年度の夏頃をめどに、どのような効果や課題が出てきているのかを一度検証したいと考えています。その結果を踏まえて、正式実施に至るかどうかを判断していきたいと考えています。

〈記者〉

検証の方法について具体的にお伺いできますでしょうか。

〈総務部長〉

まず、来庁者数がどのように変わるかというところで、時間帯別の来庁者数ですとか、実際に市民の方からどういう意見が寄せられるのか、そういったところを中心に、例えば来庁者へのアンケートなどを通じて、しっかりと把握していきたいと考えています。

〈記者〉

今回、窓口の受付時間を短縮するということですが、職員の勤務時間に変更はあるのでしょうか。

〈総務部長〉

職員の勤務時間に変更はございません。窓口の受付時間はご案内のとおり変わりますが、職員の勤務は今までどおり、通常勤務であれば午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分という時間は変わりません。電話によるお問い合わせなどについても、これまでどおりの時間で行っていくことにしています。

〈記者〉

試行する支所は 3 支所とのことですが、選ばれた理由を教えてください。

〈総務部長〉

市民影響を見極める必要があるため 3 支所を選定しました。越路、和島、栃尾を選んだ理由は、各地域の方面の中心地であることや、市民生活の窓口で一定の利用実績があるため効果と課題を検証しやすいと考えたからです。

〈記者〉

現在の長岡市民のマイナンバーカードの取得率を教えてください。

〈市民課長補佐〉

８月の末現在、保有率は８８パーセントです。

〈記者〉

今回の試行に当たり、市民に呼びかけたいことはありますか。

〈市長〉

市民の皆さんにとっては、形の上ではサービス向上ということではないと思います。一方で、市役所に来ていただかなくても、いろいろな手続きができる環境をこれからもっと拡大していきます。まだ知らない方もいらっしゃると思いますので、コンビニ交付やインターネットを使った手続き、相談などをしっかりお伝えし、活用していただけるよう訴えていきたいと思います。

〈記者〉

アオーレ長岡開庁当時から 10 数年が経過しました。この間の市民ニーズや時代の変化をどのように捉えていますか。

〈市長〉

日本一親切で便利な窓口を掲げて、アオーレ長岡の総合窓口を構築してきましたが、この 10 数年でインターネットが普及し、特にここ数年は活用が急速に浸透しています。わざわざ来庁したり、書類を手書きしたりしなくても手続きができる環境を整えてほしいという声は非常に大きくなっていると感じています。こうした環境の変化にしっかり対応することが、これからの利便性向上の中心になってくると思います。証明書一つ、届け出一つのために市役所の窓口に来る状況をできるだけ少なくするという意味でのサービス向上に、これからも力を注いでいきたいと考えています。

【会見項目２：市有２施設のネーミングライツ愛称が決定　大手スカイデッキも募集】

〈市長〉

６月から募集していた２施設のネーミングライツパートナーと愛称が決定しました。長岡市悠久山野球場は株式会社晴耕舎がパートナーとなり、愛称は「悠久山スターマインスタジアム」です。契約期間は令和８年 10 月１日から令和 13 年９月 30 日までの５年間です。長岡市民防災公園は、株式会社イートラストと、FM ながおか放送局である長岡地域情報基盤株式会社の共同応募で、愛称は「イートラスト防災公園 807」です。契約期間は令和８年 10 月１日から令和 12 年３月 31 日までです。

いずれの施設も市民にとっておなじみの場所です。悠久山球場は高校野球の会場として県内でも知られており、さらに多くの皆さんに知っていただき、企業活動にも活用してもらうことは、市民にとっても良い関係だと思います。「スターマイン」という長岡花火の代名詞ともいえる名称を付けていただいたことをありがたく思っています。市民防災公園についても、改めて防災の拠点であること、そして FM ながおかが、いざというときの情報発信源であることを市民の皆さんに知っていただく意味でも、非常にありがたいと思っています。

今後も適切な市有施設を選んでネーミングライツを進めていきたいと考えており、まず大手スカイデッキについて、10 月５日からパートナー募集を開始します。契約期間は令和９年４月１日から令和 12 年３月 31 日までの３年間で、希望金額は年額 100 万円以上です。「大手スカイデッキ」の名称を愛称の中に入れていただくことを条件とし、企業活動にもメリットを感じていただけるパートナーからの応募をお待ちしています。

各パートナーの代表者様から一言ご挨拶をお願いします。

〈株式会社晴耕舎〉

長岡といえば花火だと思いますので、花火の名前である「スターマイン」を付けさせていただきました。このネーミングライツによって、悠久山スターマインスタジアムがより良い球場になっていくことを願っておりますので、今後ともよろしくお願いします。

〈株式会社イートラスト〉

近年、今日もそうですけれども、気候変動による災害が多発する中で、この防災公園の機能、それからFM ながおかの 80.7MHz で行っております防災放送や緊急告知ラジオの仕組み、こういったものをネーミングライツを通して、市民の皆さんにより幅広く知っていただきたいと考えています。

ゆくゆくは、長岡市の防災力の向上に少しでも貢献できればという思いで取り組ませていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

〈記者〉

ネーミングライツ料は、どのように決まったのでしょうか。

〈財産マネジメント課財産活用担当課長〉

市が希望金額を示した上で、各企業から応募の際に金額をご提示いただいたものです。

〈記者〉

防災公園について、応募者が 2 ということなのですが、この 2 というのはイートラスト様と情報基盤株式会社様以外にもう 1 社あったということなのでしょうか。

〈財産マネジメント課財産活用担当課長〉

そうです。

〈記者〉

今後、大手スカイデッキ以外にもネーミングライツを広げていく考えはありますか。

〈財産マネジメント課財産活用担当課長〉

現在、山古志闘牛場とニュータウン運動公園で検討しています。それ以外の施設については、今回の成果や市民の反響などを検証しながら、慎重に判断したいと考えています。

〈記者〉

悠久山野球場と防災公園の看板の掛け替えなど、準備状況はいかがでしょうか。

〈株式会社晴耕舎〉

すでに準備を進めており、悠久山野球場については、高校野球の北信越予選の際には公開できるよう準備しています。

〈記者〉

除幕式のようなイベントを開催する予定はありますか。

〈株式会社晴耕舎〉

今のところ考えておりませんが、検討させていただきます。

〈株式会社イートラスト〉

除幕式ではなく、何かのイベントのときに一緒に PR できればと思っています。

〈記者〉

「スターマイン」という名称にした理由を教えてください。

〈株式会社晴耕舎〉

長岡の花火にはフェニックスや三尺玉などいろいろありますが、スターマインは昔からあり、誰しもに馴染みのある花火の代名詞ではないかと思い、付けさせていただきました。

〈記者〉

「悠久山スターマインスタジアム」という愛称をどのように受け止めていますか。

〈市長〉

スターマインは一般名称でもありますが、長岡花火では昔から大型花火に付けられてきた名称です。市民の皆さんにも非常に分かりやすく、悠久山球場から野球のスターマインが上がる、あるいは市民の思いがそこで上がるという意味でも、とても良い名称ではないかと思っています。

〈記者〉

企業名が愛称に付くことについて、市長の受け止めはいかがですか。

〈市長〉

長岡の企業の皆さんと一緒に、市民活動や市の行政も歩んでいるという形を、こういう形で示すことには意義があると思っています。

〈記者〉

大手スカイデッキのネーミングライツに期待することは何ですか。

〈市長〉

11 月にミライエ長岡がフルオープンし、中心市街地の機能が新しいステージに入ります。大手スカイデッキも、より多くの皆さんに活用していただける施設になると思っています。企業の皆さんにとっても、ここにネーミングライツを設定することには一定の価値を感じていただけると思いますので、ぜひ応募いただきたいと考えています。

〈記者〉

今回のネーミングライツ料は、各施設の維持管理費に充てるということでよろしいでしょうか。

〈財産マネジメント課財産活用担当課長〉

ネーミングライツ料は、原則としてその施設で活用することになります。維持管理費のほか、ネーミングライツを生かして、市民の皆さんに喜んでいただけるようなしつらえができればと、現在検討しているところです。

【会見項目３：AI は世界をどう変えるのか「人類のミライへ in NAGAOKA」を開催】

〈市長〉

市制施行 120 周年と米百俵プレイス ミライエ長岡の全館オープンを記念して、「人類のミライへ in NAGAOKA」を開催します。未来を担う子どもたちをはじめ、市民の皆さんに、世界の第一線で活躍する研究者やクリエイターの考え方や挑戦に直接触れていただき、AI とともに歩むこれからの社会や、自らの可能性を考える機会をつくりたいというものです。

11 月 14 日にオープンする米百俵プレイス ミライエ長岡の東館を会場に、28 日、29 日に開催します。企画監修は長岡市出身の AI／ストラテジースペシャリスト、清水亮さんです。28 日の講演会には、MIT メディアラボ副所長の石井裕さん、東京大学名誉教授の暦本純一さん、東京大学先端科学技術研究センター教授の稲見昌彦さん、メディアアーティストの落合陽一さんをお迎えし、清水さんがナビゲーターを務めます。

AI やデジタル技術で社会が大きく変化する中、知識を得るだけでなく、自ら考え、問いを立て、挑戦する力が重要だと思っています。世界の第一線に立つ方々の考え方や挑戦に直接触れることによって、特に子どもたちが世界の見方を広げ、将来の進路や夢を考える貴重な原体験になることを期待しています。実用的な AI のノウハウを学ぶというより、子どもたちが 10 年後、20 年後に「あのとき長岡で、AI の世界や

未来を語る場に自分が立ち会ったことが、人生にとって大きな意味を持った」と思えるような体験にしたいと考えています。

〈記者〉

著名な講師がそろったことについて、どのように受け止めていますか。

〈市長〉

いろいろなところにお願いして集めたというより、私と清水さんとのつながりの中で話が進みました。石井さんについても、清水さんから「長岡のイベントに来てもいいと言っているがどうか」という話があり、ぜひお願いしますと申し上げました。他の方々も清水さんのつながりを通じて来ていただいていますので、やはり清水さんの力が大きかったと思っています。

〈記者〉

ミライエ長岡の全館オープンに合わせて開催する、このイベントへの思いを改めてお聞かせください。

〈市長〉

私が市長選に最初に出たとき、イノベーションを政策、公約の中心に掲げました。当時は長岡技大などのテクノロジーを長岡の産業界に導入し、産業を活性化、発展させることを強く意識していました。一方で、当時からシンギュラリティという言葉も盛んに言われ、2045 年には AI が人間の知の総和を超えるという話を、私はある意味リアルなものとして感じてきました。生成 AI の普及によって、それが 2045 年を待たず、今まさに現実のものになってきています。

AI と長岡市、産業界、教育、子どもたちがどう付き合っていくかは、長岡の未来を形づくる大きな中心になってきたと感じています。新しい総合計画がスタートし、ミライエ長岡がフルオープンするこのタイミングで、こうしたイベントが開催できることは、長岡の発展の一つのエポックとして歴史に刻まれるものにしたいと思っています。特に若い人や子どもたちに、あのとき市制施行 120 周年の長岡でこういう人から話を聞いたという記憶が一生残り、自分の活動の糧になるようなイベントにしたいと考えています。

〈記者〉

子どもたちには、どのような形で参加を呼びかけていますか。また、現在の参加状況を教えてください。

〈DX 推進部長〉

小・中学校では、全ての児童生徒にチラシを配布して参加を呼びかけています。また、大学や高専などにも周知を依頼しています。

現在、1,200 人の枠に対して 600 人程度の応募があり、そのうち小・中学生が 100 人弱、高校生が 20 人程度となっています。

【報道リリース：本市出身の考古学者・故 小林達雄氏に長岡市表彰】

〈市長〉

縄文文化研究の第一人者で、本市出身の故・小林達雄先生に対し、長岡市表彰を行うことを決定しました。先生は生涯にわたり縄文文化研究を牽引され、馬高縄文館の名誉館長として火焔土器や縄文文化の価値を世界に発信していただきました。大英博物館での火焔型土器の展示監修や、信濃川火焔街道連携協議会の顧問として日本遺産認定に尽力されるなど、その功績は計り知れないと考えています。

令和 4 年には、長年にわたり収集された資料や文献など約 10 万点に及ぶコレクションを長岡市にご寄贈いただきました。私が最後に先生とお会いしたのは、 2 年前に科学博物館で開催したコレクション展の会場でした。ご寄贈いただいた資料についていろいろなお話を伺う中で、非常に百科全書的というか、広範な人文学的な興味をお持ちで、縄文考古学に限らず非常に幅広いお話を伺い、長岡への郷土愛に心から感銘を受けました。

今年は火焔土器発見 90 周年の節目の年です。先生の功績を顕彰できることを大変意義深く思っています。託された知の遺産を、未来にしっかりつないでいきたいと考えています。10 月 17 日、18 日には馬高縄文館で「火焔土器発見 90 周年祭」を開催し、その席上でご遺族に長岡市表彰をお渡ししたいと考えています。

〈記者〉

寄贈された約 10 万点の資料について、今後どのように活用していくのでしょうか。

〈科学博物館長〉

現在、資料の整理を進めています。書籍の間に残されたメモなども丁寧に保存しており、整理が終わった際には、専門分野だけでなく、先生が生きてこられた様子も含めて市民の皆さんに公開したいと考えています。現在は半分以上の整理が終わったところで、今後も作業を進めていきます。

【その他質問】

〈記者〉

柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の施設管理計画の申請書類に不備が見つかったことについて、市長の受け止めを伺います。

〈市長〉

今回の申請の問題に加え、人身事故もあり、いろいろな問題が出てきています。前回の会見で、稲垣所長は柏崎刈羽原発の問題点を十分認識しておられるように見えると申し上げましたが、その考えは変わっ

ていません。ただ、ご本人も今の状況は緊急事態であり、非常に重大な状況にあるとおっしゃっていることから考えると、全体の問題点を認識していても、それを具体的に解決するための考え方や手法、手段が、まだ見えていないのではないかという感想を持っています。

問題を認識しても、解決するステップが見えてこなければ、次から次へとこうした事態が起きると思います。それが東京電力全体の安全に対する企業文化の問題なのか、体制の問題なのか、資金の問題なのかは分かりませんが、本当にしっかり取り組んでもらわなければ、市民の不安解消には到底つながらないと考えています。

〈記者〉

今回の申請書類の不備について、東京電力から市に直接説明はありましたか。

〈原子力安全対策室長〉

９月２５日（金）に東京電力から直接説明を受けています。長岡市としては、まずは国にしっかりと審査していただきたいと考えています。

〈記者〉

原子力災害時の除排雪体制への県の支援について、どのように評価していますか。

〈市長〉

長岡市からも、降雪時の避難の確保、運営に関して、除雪費用の問題をかねてから県に要望してきました。それに応えたものが今回の補正予算ではないかと考えており、県が応じてくれたことは評価したいと思います。一方で、実際の配分額が長岡市の必要とする所要額にどれだけ貢献するのかは別の問題です。避難の実効性を高めるために必要な除排雪経費のあり方については、今後改めて検証し、必要な意見、要望を県に伝えていきたいと考えています。

長岡市では多額の除排雪経費を負担しており、地域では除雪組合や町内会が消雪パイプの費用も負担しています。これからの降雪を考えると、除雪経費の負担は長岡市の財政にも大きくのしかかってきます。原発事故時の避難の実効性を高めるためにも、必要な手当をしっかり行ってもらいたいと考えています。

〈記者〉

原発再稼働に伴う電気料金支援について、長岡市としての考えを伺います。

〈市長〉

電気料金の補助については、本来 30 キロ圏内に入りながら対象になっていない住民がいるという不平等、不公平を是正すべきだと訴えてきましたので、今回の動きは歓迎したいと思っています。ただ、全体の不

公平を解消するのであれば、県がお金を配って終わりということでもないと思います。制度の問題ですので、最終的には国の制度の中で、電源三法の改正という形できちんと位置づけられることが望ましく、それを求めていきたいと考えています。基金からの支出についても、全体として不公平を是正する観点、仕組みが必要だと考えており、現在、関係市町村や県と調整しているところです。

〈記者〉

JA の仮渡し金が前年産から大きく下落していることについて、市長はどのように受け止めていますか。

〈市長〉

前年からこれだけ引き下げられたことは、農家にとって本当に大きな問題だと考えています。農業生産は簡単に増産、減産できるものではありませんので、安定的な米価がなければ、農業の継続性が損なわれていくと思います。特に後継者難が著しい現状ですので、安定した米価、仮渡し金が設定されなければならないと思っています。需給調整についても、国が場当たり的ではなく、中長期的にしっかり取り組む農政を求めていきたいと考えています。

〈記者〉

備蓄米の買い戻しについては、どのように考えていますか。

〈市長〉

米価の調整機能として備蓄米を使うことは、本筋ではないと思います。食料安全保障という考え方は当然あると思いますが、米価が安くなったから買い入れるということで本当にいいのか。流通在庫が課題になる中で、買い上げても消費者米価が本当に下がるのか、結果として誰を助けることになるのかという問題もあります。悪いことではないにしても、本質的な米価の安定にはつながらない政策ではないかと思っています。米の流通も含めた需給調整を踏まえ、中長期的な政策と米価形成の仕組みをつくってほしいと考えています。

〈記者〉

米価下落で経営が厳しくなる農業者への市独自の対応は考えていますか。

〈市長〉

県市長会でも要望事項の中に入れており、長岡市としても求めています。さらに何を求めるのかを明確にし、農業生産の多い市町村とも協力して訴えていきたいと思っています。

〈記者〉

新潟市のアリーナ構想について、新潟アルビレックス BB への影響をどのように考えていますか。

〈市長〉

新潟市のアリーナ構想はまだ計画段階で、実現までは相当先の話になると思います。完成後にアルビレックス BB がどういう形になるかは今から予測することは難しいですが、それなりの影響は受けると思っています。ただ、一つのアリーナで全ての試合をこなすということはあり得ません。ホームのあり方について、アルビレックスとも、新潟市とも協議しながら、「バスケのまち長岡」のこれまでの動きが継続されるような形で調整していきたいと考えています。

〈記者〉

B リーグのカテゴリー要件を考えると、アリーナの座席数、観客席の問題がありますが、市としての考えはありますか。

〈市長〉

物理的には、これ以上大きくすることは難しいと考えています。そこを何とかするということについては、長岡市としてできることはそれほどないと考えています。